

第3章 夢・感動を共有するチャレンジスポーツ

～「スポーツどころ」を高める～

<目標>

ジュニア期のアスリート発掘・育成システムを確立するとともに、京都府が誇るトップアスリートや指導者の活躍を支援し、府民と夢や感動を共有します。

本府ゆかりのトップアスリートが、オリンピック・パラリンピックや世界選手権をはじめとする国際大会や、国内での京都府の競技力の指標となる国民体育大会などの全国大会で活躍することは、本府のスポーツ推進に大きく貢献するとともに、府民に明るい話題を提供し、夢や感動、勇気を与え、自信と誇り、郷土愛を育みます。

そのため、優れた素質を持つジュニア期の選手を早期に発掘し、組織的・計画的にトップレベルの選手に育成するとともに、本府に拠点を置いて活躍するアスリートや指導者を支える環境を整備します。

また、世界や全国の舞台で活躍したトップアスリートが、その経験を様々な活動を通じて府民に伝えていくことで、支えてもらった社会に貢献し、地域の活性化を図るという好循環をつくります。

具体的目標

- 1 京都府ゆかりの選手が、オリンピック・パラリンピックや世界選手権をはじめとする国際大会において、毎年メダルを獲得することを目指す。
- 2 国民体育大会において、京都府選手団が男女総合成績常時入賞（8位以内）を果たす。
- 3 公認スポーツ指導者を10年間で1,000名の増員を図るとともに、各団体に登録された全ての指導者が年1回以上資質向上のため研修会を受講する。

府民が持ちたい「スポーツどころ」

人々は、日々の生活の中で「よしっ!」「さあ!」「やってみよう!」という前向きで積極的な気持ちを持って行動しています。その前向きな「心のありよう」が、誰もが持っている「スポーツどころ」です。

チャレンジスポーツで「スポーツどころ」を高める

本来、スポーツとは競い、克服し、新たな自分を発見するためのものです。不断の努力を積み重ね、人間の可能性の極限を追求するとともに、他者を尊重し、人々に共感を得るプレイにチャレンジすることで「スポーツどころ」を高めることができます。

I 未来に羽ばたくジュニアアスリートの育成

全国や世界の檜舞台で活躍できるトップアスリートを早い段階から発掘・育成・強化していくため、競技団体や地域等との連携を図り、ジュニア期からトップレベルに至るまで体系的かつ戦略的なシステ

ムを構築します。

1 ジュニアアスリートの発掘・育成システムの構築

(1) ジュニアアスリート強化育成システム支援（新規項目）

競技団体は、ジュニアアスリート育成強化の独自のシステムを持っており、これまでもこのシステムを通じて、本府を代表するアスリートを発掘・育成してきました。今後も引き続き、競技団体独自の育成強化システムを支援し、ジュニアアスリートの育成を図ります。

(2) 学校や地域に強化拠点を設けた育成強化支援

府内の学校や地域には、長年にわたり高い競技力を持つゆかりのあるスポーツがあり、本府の競技力を支える原動力となっています。これまでも、その地で育った選手が全国や世界の舞台上で活躍し、現役引退後は指導者として活躍するケースは少なくありません。

本府では、このようなスポーツ風土を活かし、市町村や競技団体、学校、小学校・中学校・高等学校の各体育連盟等と連携しながら、地域に根ざしたジュニア世代のスポーツ活動の活性化を図ります。

(3) 「京の子どもダイヤモンドプロジェクト」の推進とジュニアアスリート育成システムの構築

本府では、「将来のわが国を代表するアスリートとして、国際大会でのメダル獲得を目指すとともに、豊かで明るい社会の発展に貢献できる人材を育成すること」を目的に、タレント発掘・育成事業として、「京の子どもダイヤモンドプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトは、フェンシング、バドミントン、カヌーの3競技に特化し、小学校4年生から中学校3年生までの6年間で、専門競技の実技指導「専門プログラム」とスポーツ医・科学や栄養学、社会学、トレーニング等の指導「共通プログラム」により育成を進めています。今後も引き続きこのプロジェクトを推進し、本府のロールモデルとなるよう、ジュニアアスリート育成システムの構築を進めます。

(4) 全国や世界の舞台上で活躍するジュニアアスリート支援（新規項目）

現在のスポーツ界は、トップアスリートの低年齢化が進み、中学生や高校生が全国や世界の舞台上で活躍する例が少なくありません。東京2020大会をはじめ、近い将来、国際大会での活躍に期待がかかるジュニアアスリートに対し、強化支援を行います。

2 ジュニア期における体づくりのための望ましい食習慣の実践研究及びその普及推進

ジュニアアスリートにとっての食事は、成長期の体づくり、けがの予防、技術や体力の向上を図るとともに、健全な発育を促すためにも重要です。望ましい食習慣を身に付けさせるために、大学やスポーツ栄養士との連携による実践研究を行い、普及推進を行っていきます。

また、関係団体に対して、栄養指導をはじめとしたコンディショニングの指導システムを備える京都トレーニングセンターや京都府スポーツセンター医・科学室の活用を推進します。

II 京都府を拠点に活躍するトップアスリートの育成

本府では、昭和 63 年の京都国体を契機として地域と競技団体との密接な連携により、「わがまちのスポーツ」として地域に競技が根付き、そこで育ったアスリートが国際大会や全国大会で優秀な成績を収め、本府の競技スポーツを牽引しています。これに続く競技や新たな地域を市町村や競技団体、関係機関等が更なる連携を図って開拓し、府民に活力を与えるスポーツ環境づくりを推進します。

また、トップアスリートの育成・競技力の向上のためには、質の高いトレーニング効果を引き出す支援が必要です。本府を拠点に活躍するトップアスリートの育成に向けて、スポーツ医・科学的サポート機能を充実させるとともに、競技団体や関係機関との密接な連携・協働のもと、効果的な活用を図るなど、トップアスリートの活動を支える環境づくりを推進します。

1 地域活性化を視点にした地域ならではの競技スポーツの推進

地域に根付いた競技種目のさらなる充実、発展を目指し、地元中学校・高等学校運動部及び地元スポーツ関係団体等が協働することで、新たな強化拠点の創設に努めます。そして、各種全国大会やイベントの開催・誘致により地域の活性化を図るとともに、優秀な人材発掘とさらなる競技力向上を推進します。

2 京都トレーニングセンター等との連携によるスポーツ医・科学サポート体制の充実と活用

(1) マルチサポート（スポーツ医・科学、情報、栄養分野等の多角的高度な支援）の戦略的・継続的な実施

京都トレーニングセンターでは、それぞれの選手に必要なスポーツ医・科学、情報分析、映像解析等の多角的高度な支援やスポーツ栄養学に基づいた個々の競技種目やトレーニングの目的、個人の状態に合わせた栄養指導、更には各種測定後には、データ返却（データフィードバック）にも注力し、測定結果に基づいたトレーニングあるいは、今後のアプローチについて指導者及び選手と相談しながら実施しています。戦略的・継続的なトップアスリートの育成に向けて、マルチサポート機能のある京都トレーニングセンターの充実を図るとともに、競技団体の利活用を推進します。また、大学のまち京都の強みを生かし、更なるマルチサポート体制の充実に向けて、大学との連携を進めます。

(2) アンチ・ドーピング教育の推進

ドーピングは、アスリートに重大な健康被害をもたらすことに加え、フェアプレイの精神に反し、青少年に悪影響を及ぼすなどの問題があります。本府では、(公財)京都府体育協会や専門機関等と連携し、アンチ・ドーピングに関する講習会の開催や情報の提供に努め、アンチ・ドーピング教育を積極的に推進します。

3 地域・企業・大学等が核となるトップアスリート支援体制の確立

(1) 競技団体・企業・大学と連携したトップアスリートの経済的支援、就労支援、キャリア教育等を行うことができる体制づくりの推進

今日の社会情勢では、企業が運動部を持ち、アスリートの活動を支えることが困難な状況となっており、アスリートが競技生活に専念し活躍できる環境をつくることが喫緊の課題となっています。

そのため、競技団体や企業、大学等と連携し、アスリートに対する活動支援や就労支援、現役を退いた後も社会の一員として充実した生活を送るためのキャリア教育等ができる体制づくりを推進します。

(2) 地域のスポーツ関係団体、愛好者等による「わがまちのトップアスリート」支援体制の構築

地元の選手を地域ぐるみで支え、応援する体制を構築することは、地域の絆を強め、地域コミュニティの活性化につながります。地域のスポーツ関係団体や民間団体とトップアスリートの連携によるスポーツイベント等を開催するなど、「わがまちのトップアスリート」を地域で支える体制づくりを進めます。

4 障害者トップアスリートの競技力向上方策の充実

(1) 障害者アスリートの発掘・育成

市町村や関係団体等との連携により、府内のスポーツ施設等における障害者スポーツのニーズに応じた利用方法の検討や様々なスポーツプログラム等の情報提供を推進し、「障害者スポーツのつどい」や「パラリンピックにチャレンジ」等の体験会などを通じて、障害者のスポーツ参加機会や競技人口の拡大を図るとともに、障害者アスリートの発掘に努めます。また、パラリンピアンとの交流会や全国障害者スポーツ大会、天皇盃全国車いす駅伝競走大会等への参加を奨励するなど、競技に対する意欲や関心を啓発し、トップアスリートの育成を目指します。

(2) 京都トレーニングセンター、サン・アビリティーズ城陽等障害者スポーツ拠点施設の活用推進 (新規項目)

京都トレーニングセンターは、障がい者スポーツ指導員の常駐とともに、医・科学情報サポート機能や障害者対応のトレーニング機器を有するなど、障害者の競技スポーツの拠点整備化を進めています。

また、サン・アビリティーズ城陽は、2016（平成28）年にはパラ・パワーリフティング競技のパラリンピック競技ナショナルトレーニングセンター強化拠点施設に指定され、隣接する医療機関と連携し、質の高い医・科学サポートを受けることが可能です。同じく2017（平成29）年には元京都市立山王小学校が車いすフェンシング競技の強化拠点施設に指定されています。

今後は、障害者スポーツの強化拠点となるこれらの施設に、競技会や合宿等を積極的に誘致し、利用促進を図るなど、競技力強化に向けた環境整備に努めます。

(3) 高度な競技技術・トレーニング手法の共有化

競技性の高いスポーツに取り組むアスリートには、より高度な競技技術の習得や効果的なトレーニングが必要です。障害者スポーツのみならず、他の競技や種目の枠を越え、それぞれで培ってきた強化の手法を共有することは、効果的なトレーニングや指導方法の開発にもつながり大変有効です。そのため、府内の関係団体との連携を一層推進し、これらの情報の共有化を図ります。

Ⅲ 社会性豊かなアスリートの育成に向けた指導者の育成と指導体制の構築

東京2020大会の開催が決定し、その成功に向けての大きな要因となる我が国のスポーツ指導者の資質向上は、国内外から注目を浴びています。京都府においてもスポーツ指導における体罰が問題になる中、勝敗のみにこだわるのではなく、スポーツが本来持つ楽しさを味わわせるとともに、より高度な専門的

知識と高い指導力を持つ指導者の養成が必要です。

1 優れた指導力を持った指導者の育成・確保

(1) 京都府教員採用のスペシャリスト特別選考によるアスリートの採用等、高い競技力と人間的魅力を有したトップコーチの京都府招へいの推進

国際大会出場等の高い競技力とともに、指導者としてふさわしいパーソナリティを有するアスリートを京都府教員として採用するとともに、全国から積極的にトップコーチを招へいし、中学校及び高等学校に配置することで運動部活動における中高連携や地域スポーツの拠点づくりを図り、競技力の向上に努めます。

(2) コーチング方法学やスポーツ医・科学などを多角的に学ぶ研修の充実

日本のトップコーチ、スポーツドクター、研究者等を講師とした研修会の実施や、中学校、高等学校及び各スポーツ団体等の指導者同士の情報交換会などを通じて、将来のトップアスリートを指導する知識や技術を多角的に学ぶことができる研修の充実を図ります。

(3) 技術指導だけでなく、キャリア教育を含めアスリートの社会性、人間性を伸ばす指導者の育成

中学校、高等学校、大学及び各スポーツ団体等の指導者がアスリートに対し、技術指導だけでなく、社会性や人間性を伸ばす指導や、現役引退後も社会人として活躍するためのキャリア教育も行える力量を身に付けるために、コミュニケーション能力をはじめとする「人間力の育成」をテーマとした研修会を開催するなどの支援を充実します。

(4) 女性指導者の活動をサポートする体制や環境づくりの推進

近年、日本のスポーツ界において女性の活躍は目覚ましいものがありますが、女性指導者のライフサイクル等に対応する環境は必ずしも十分ではありません。京都女性スポーツの会では、府内女性指導者と日本のトップで活躍する女性指導者との交流や研修会等を実施することにより、優れた女性指導者を育成する取組が進められています。本府では、このような女性指導者の活動をサポートする体制や環境づくり推進に向けて、女性指導者育成支援を図るとともに、各種大会において女性監督やコーチを積極的に登用することを奨励し、女性指導者の活躍の場の拡大を図ります。

(5) 障害者スポーツの指導者の育成・確保

障害者スポーツの普及にあたっては、資格を持った指導者の確保が不可欠ですが、本府では、上級の障がい者スポーツ指導員数は全国並みであるものの、初級、中級の指導者は不足傾向にあります。

障がい者スポーツ指導員の育成・確保に向けて、市町村や大学、教職員、スポーツ推進委員等と連携し、初級障がい者スポーツ指導員資格及び中級・上級資格取得のために情報提供や支援に努めます。

また、障害者スポーツ（障害や競技の特性）について教育を受けた指導者や介助者のスポーツ施設への配置を進めるとともに、講習会や研修会等を充実させ、指導者や理解者を増やす取組を進めます。

(6) 競技団体との連携による若手指導者の育成・拡充（新規項目）

本府では、競技団体の指導体制の充実を図り、選手・チームの育成強化を効果的に推進させるために、指定コーチ制度を導入していますが、各競技団体においては中核を担う指導者の高齢化が進み、若手指導者の育成が課題となっています。そのため、若手指導者のための研修制度や支援を充実させ、指導者の育成や拡充に努めます。

2 京都府における競技団体組織体制の充実と国との連携

(1) 競技団体の組織運営、事業運営、競技力向上体制等におけるガバナンスの強化

競技団体はもとより、学校体育団体・スポーツ団体は、府民にスポーツを提供する立場にあるため、府民の理解や社会とのつながりを大切にして、透明性の高い組織運営体制を構築することが求められます。

そのため、国や中央の関係団体が策定するガイドラインに基づき、府内の体育・スポーツ関係団体におけるガバナンスの強化に向けた取組を進めるとともに、あらゆるハラスメントや体罰等の根絶など、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）の向上に努めます。

(2) 京都府内の競技団体と全国の上部団体、ハイパフォーマンスセンター（HPC）・味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）等との連携促進

競技力向上のためには、競技団体の強化体制の確立はもとより、国や中央競技団体の動向及び国際組織が行うルール改正や強化に向けた新しい情報の獲得も必要となります。また、東京 2020 大会の開催に伴い、これまでもサン・アビリティーズ城陽や元京都市立山王小学校が東京 2020 パラリンピックの正式競技であるパラ・パワーリフティング競技や車いすフェンシングのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設に指定されるなど、国と連携した強化施策が進められています。

今後も引き続き国や中央の関係団体との連携を深めながら、中央競技団体で行われる各種研修会、審判講習会等への府内指導者・役員の参加機会を増加させるなど、府競技団体の組織体制の充実を努めます。